



《楊貴妃秘史》

唐帝国——世界古代歴史上もっとも輝いた時期！その時代に数多く不滅の詩や詞、音楽や絵画、歌や踊りが生まれ、後世にいつまでも称賛されるたくさんの名人を世に送り出した。そして楊玉環（のちの楊貴妃）はその絶世の美貌から生んだ数々の伝説によって、この輝かしい時代をさらに彩らせた。

楊玉環は一生を通じて二人の男性に心を預けた。一人は義侠心があり、多彩な詩で唐の詩歌界のトップに君臨した「詩仙」李白；もう一人は唐王朝の座を奪い戻し、開元の治で唐の絶頂期を作った「玄宗皇帝」李隆基だった。自由奔放な詩人李白、そして絶対的な権利を持つ帝王李隆基。楊玉環は二人の男性の間で揺れ苦しんでいた。李白を愛してやまないが、国中を旅して詩を作っていく彼にはついていけなかった。想いを断ち切るように、楊玉環は玄宗皇帝に愛情を誓った。しかし皇帝の一途な気持ちを簡単に得られず、彼女は毎日後宮の三千人の女性たちと恋のバトルをしなければならなかった。しかし親友の謝阿蛮と高麗將軍高仙芝ふたりの禁断な交際をみて、彼女は理想な恋の形を知った。楊貴妃はふたりに助けをし、その恋を成就させた。彼女の美貌と権勢の背後には、純粋で優しい天性が見え隠れていた。後宮の熾烈な戦いに対して、楊貴妃は優しい心と愛情で宮廷内のバランスを守ろうとした。安禄山の醜態に直面して、彼女はこわばっても笑い過ごした。楊貴妃は玄宗皇帝の自慢する道具にすぎなかった。彼女の一生は悲劇の終焉に向かう伝説だった。

歴史上の女性ほか誰よりも浪漫的な物語。楊貴妃の美貌、その恋、その波乱万丈な一生はいくつの時代を経て今のなお語られ続ける。趙飛燕のように美貌だけで皇帝の寵愛を独占するのではなく、武則天のように陰謀を立てて政権を奪うことなく、慈禧太后のように野望を抱いて垂簾聴政を行うことなく、楊貴妃はダイアナ王妃のように非情に命を落とした。その一生はのちに漢詩「長恨歌」として我々に残した。